

B-1 グループ研究のまとめ

1 研究の成果

(1) 指導内容の重点化

基本的な生活習慣や学習習慣（以下、生活習慣と略す）において、多岐にわたる指導事項を整理し「健康の管理」「時間の管理」「ものの管理」「人と交わる力」に分類した。その項目から、発達段階に応じた指導内容を精選し、1年生では主に身近自立に関することや言葉遣いに関するることなどについて、2年生では人とのかかわりに関する内容を中心に、6つのプログラムを作成することができた。

(2) プログラム構成の工夫について

生活習慣の指導では、4つの指導の手立てが必要である。

- ・ 望ましい生活習慣の行動を繰り返し、継続させる指導
- ・ 生活習慣にかかわる、行動の仕方や生活技術を教える指導
- ・ 生活習慣のよさを自覚させる指導
- ・ 児童の道徳的な心情や意志・態度を行動と関連させる指導

以上の4つの指導の場をプログラムの中に設定し、道徳と学級活動及び日常の活動との関連を工夫した指導を行った。その結果、日常の活動では、児童自ら、実践活動に取り組む姿が見られるようになり、よりよい生活への意欲を高めることができた。

ア 「快」感情を高めるプログラム構成

学級活動と道徳を関連させることにより、望ましい生活習慣を行うことと「快」感情を結び付けることができた。学級活動で「快」感情を味わわせることによって、日常の実践化へ向けての自己決定をさせることができた。日常の活動では、行動と感情を振り返らせたり、実践への意欲を振り返らせたりする「ちからカード」を使って取り組ませたことが、実践への意欲を継続させることに効果があることが分かった。

イ 有能感を高めるプログラム構成

道徳の時間では、人とかかわりをもつことのよさを学習した。生活技術を獲得するために、具体的な行動のポイントを示して指導をした。1度の練習では身に付かない生活技術を学級活動や日常の活動の時間に、練習の場や振り返りの場を設定して取り組んだ。練習や実践をしたことが、自己評価だけでなく、友達からの良かった点への評価を得ることで、児童の有能感が高まり、実践の意欲へとつながった。

2 今後の課題

- (1) 生活習慣の指導では、学級活動と道徳及び日常の活動だけでなく、各教科とも関連させたプログラムを作成し、関連的な指導を図る。
- (2) 望ましい生活態度を習慣化させるためには、身に付いた態度を継続させることが大切である。今後、身に付いた態度を習慣化させる指導の在り方を探る必要がある。

《参考文献》

- ・ 成田 國英 『家庭との協力を生かす生活習慣の指導』 1988年 明治図書
- ・ 家本 芳郎 『月刊生徒指導』 2004年4月 学事出版